

はしがき

－「中東イスラーム研究の先達者たち」シリーズ刊行に当たって－

NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点グループ2「中東政治の構造変動」では、研究活動の一環として、「中東イスラーム研究の先達者たち」プロジェクトを2007年度から試験的に開始している。このプロジェクトは、先駆者的な研究者とのインタビューを記録として残し、その研究資料を整理・分析することを通じて、中東研究・イスラーム研究のこれまでの歩みを振り返り、その成果を確認することを目的にしている。次世代の研究者がこのプロジェクトの成果から、今後の自身の研究発展に生かすものをいかなる形でも学び取り、感じ取りすることができれば幸いに思う。学問の本義が人を励ますところにあると考えるならば、先達の研究者が歩んだ道に接することは、後に続く私たちを何よりも勇気づけるものであろう。

シリーズ「中東イスラーム研究の先達者たち」第一回として刊行するのは、黒田安昌先生の『弱者の細道を行く：アメリカ中東研究に携わった日本人の研究者』である。先生の説明によるとタイトル「弱者の細道」は、日本人がアメリカで中東を研究するときに出会うさまざまな困難、そのデコボコだらけの狭い道を意味するものであるという。日本とアメリカ、そして中東という研究世界の狭間の道を、第二次世界大戦敗戦直後から今世紀にいたる激しく動く政治情勢に身をもって接しながら、研究者として生きた黒田先生の数々の経験と知見には、繰り返し読み直して学ぶべきものが多い。

黒田先生とのインタビューは、発案者である藤田進氏（東京外国語大学）と臼杵陽氏（日本女子大学）と長沢が2007年8月28日に行なった。先生からのお話は、最初は駅前のファミリー・レストランで、それから先生のご自宅に場所を移してうかがった。ご自宅には奥様からご夕食を用意していただくほどに長居をしたが、今回収録するのはうかがったお話の主要な部分について話題の項目別に整理・編集したものである。この編集は飯野りさ氏（国立民族学博物館共同研究員）にお願いした。ここに記して謝意を表したい。また、インタビューから刊行まで丸1年かかるなど諸般の事情で遅れてしまった点も、黒田先生にこの場を借りてお詫び申し上げたい。

なお、この「中東イスラーム研究の先達者たち」プロジェクトの成果としては、一足早く7月に、故吉岡俊輔先生（元気象大学校教授）の残された草稿などを整理し、一部電子画像化した「吉岡俊輔氏研究資料」が本グループのウェブサイトに掲載されている。ご関心のある方は、同サイトにもアクセスされることを願いたい。同サイトのURLは、下記のとおりである。

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokyo-chuto/yoshioka-sensei/html/newpage1.html>

2008年8月

NIHU プログラム・イスラーム地域研究
東京大学拠点グループ2「中東政治の構造変動」

研究代表 長沢栄治（東京大学東洋文化研究所）